

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	岡山県津山市瓜生原331		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370300661&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関を出ると花壇があり四季折々の花の植かえをし入居者様に心とんとん頂いています。廻りには法人の建物が点在しており行事ごとに交流させて頂いています。理念を基に様々なサインをキャッチしながら今の瞬間を大切にしています。定期的に幼稚園の子供達が訪れてくださる事で広いホールを活かしダンス・ゲーム等、一緒に楽しむ事が出来ています。敬老の日には例年のごとく入居者様のご家族全員が揃い盛大な祝賀会が行えご家族の交流も盛んです。学生・他のホームの介護実習を受け入れられる事により新鮮な風も吹いています。日課のラジオ体操・レクリエーションなどによる健康維持、又、個々に日々の楽しみを見つけれられるよう努力しています。皆様お部屋にこもらずにホールに出でこられ、和気藹々に寄添ってソファに座られ膝掛けの掛け合いをし、微笑ましい日々を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年グループホーム開設十周年を祝い、次の段階を踏み出したばかりのこのホームは、グループホーム誕生当時設定された本来の役割をぶれる事なくきちんと踏襲し続けている。社会福祉法人「鶯園」のバックアップの力が大きいからこそ、可能な事とは思いますが、利用者との契約の時点で家族にもホームの方針をはっきり伝えている。家族はよく理解し、ホームとの絆は深い。今日も「家で母を見る事はできないけれど来れる時は来させてもらおうです」と言って手作りケーキ持参で昼食作り等一日中お手伝いしてくれる家族にも出会った。利用者も家族もそして職員も、その時・その時を楽しみ、おもしろくて思わず笑顔がこぼれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内のよく見える場所に掲げて職員全員が理念を共有し実践に努力している。管理者は、日々の中で実現に向けて指導している。	事業所が掲げている理念についてはミーティングを始めとして事ある毎に再確認するようにしている。またユニットで「自分で出来る事はしてもらい、尊厳の念を持って対応しよう」といった年間目標を設定して評価し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(小学校の運動会・ふれあい祭り)同事業所が主催する行事(納涼祭・演芸)に参加し買物などされ社会交流が出来る。地域に向けての四季のホーム たより配布。	住宅街から離れたホームなので、歩行が困難になっている利用者の地域交流は厳しい面もあるが、広い法人敷地内での交流や行事への参加・ドライブを兼ねての買い物等楽しんでいる。また、ボランティアや園児・学生等の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族、地域推進会議等で認知症に対する話しをしている。研修・講演等での、いい情報は話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題、要望を検討し、サービス向上に努めている。その中で、ご家族の多数参加の方が意見が言いやすい、盛り上がる等で、最近のご家族全員に参加呼びかけし盛り上がる、充実したものになった。	年6回定期的に市の介護保険課・地域住人・家族(5~8名程度)が参加して状況報告・意見交換が行われている。時には利用者も参加して和気あいの楽しい会になっている。活発な情報交換もなされていて、とても有意義だ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催する研修会に参加。運営推進会議で市の担当者が来られる事でホームの状況やケアの取り組みを伝えられている。ご家族の意見がでることにより回答が次回に繋がるなどで好ましい取り組みが出来ている。	運営推進会議には市の担当者が必ず出席し、参加者との連携がよくとれている。特に家族からの質問も多く、誠実に答え、指導していただく等、他の市町村ではあまり見られない程の協力関係がここで見受けられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会・セミナー等参加。組織会議でも、正しく認識するよう日々努力し内容についての話し合い等行っている。日中は玄関、窓を解放している。野外に出られる方には一緒に付き添っている。	身体拘束や虐待についての研修にはよく取り組んでおり、日頃のケアの現場でこれらにつながる要因はないか等話し合っている。玄関の施錠も含めて、身体拘束禁止の対象となる様な状況は全く見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、申し送り、ミーティング等に話し合い、職員への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の研修参加。情報などで職員は概要を理解出来ており、日々努めている。当方では現在必要とされる方はいないが、今後必要な方が入れば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があれば再度同意の取り直しもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・ご意見箱の設置を行っている。面会時、電話連絡時、行事参加等に、日常の様子をご家族にお話し相談をしながら行なっている。ご入居者からは、日々の会話から聴く努力をしている。	運営推進会議では多くの家族の出席があり、意見や質問も活発に出されている。今日出会った家族の話からもホームと家族の日頃の関係を伺い知る事が出来た。管理者・職員は利用者に対しても良くコミュニケーションを図っており、しっかり耳を傾けている。	研修等でリスクマネジメントについてよく話し合われていた。このホームは家族との絆が深いので問題は少ないと思うが、ホームの問題点については全家族に情報開示して、共に考える姿勢は大切にしていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時やミーティングで意見、提案を聴き、話し合いを行い、反映させている。	前回の外部評価の結果をもとに職員がよく話し合い、この項目の取り組みを最優先させてきた。個々の職員が短期目標を設定し「〇月レベルアップ評価」シートに各々の「気づき」を記入し評価し合う試みは、職員の意識を高めるだけでなく、ホームの運営にも大きく影響すると思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各事業所会議にて、日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況を把握し各自は向上心を持って、働けるよう配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会へ参加し、各自の向上心と、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資質向上セミナーの勉強会に参加し、市町村との、ネットワークづくりに努めています。又、他のホームから介護実習の依頼を頂き受け入れしている。お互い向上になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、これまでの生活状況、介護の情報等把握し要望を聞いている。又 入所前にホーム見学していただき関係作りに努め安心して来ていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡したり、相談にのるなど努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に何を望まれているか、当サービスを利用することが適切かどうか検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせた日常生活を職員と共に過ごしている。床のモップ掛け・テーブル拭き・四季折々の野菜・果物をテーブルに置き皆で懐かしい話題に盛り上がる。お正月に食べようとつるし柿作りに夢中になれる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際、ご家族に来ていただき食事づくりに参加等で家庭を感じていただく。面会時に時間をとっていただき、ご家族と一緒に行事の作品作りを楽しんで頂く。レクリエーションをして頂く等、喜んで頂いている。		
20	(8) giri	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出される方には元気に生活されている様子を写真にとり送れるよう支援している。ご家族にも協力を得て気分転換を図れるようドライブ・外食が、出来ている。面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮する。	ホームの立地の状況で地域の人達との行き来は簡単ではないが、ドライブも兼ねて馴染みの青空市やスーパーに行き買い物をしたり、以前行っていた美容院の利用等、できる支援をしている。また家族もよく協力してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、互いに馴染みの関係となり、コミュニケーションが出来るよう工夫しています。気の合う入居者同士の席には配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後はご家族から電話を頂いたり、こちらからも、今の状況をお尋ねしている。相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。言葉で聴くと「だいたいしょうぶ・なんでもない・ええ・わからん」とニーズの把握は難しいが、日々の関わりの中での様子、表情から汲み取るよう努力している。	静かで穏やかなソファの一隅に近付いて聞き耳を立ててみると、〇〇さんの話がある職員がじっくり聴いていた。職員は本人からキャッチできる思いや意向だけでなく、家族からもできる限り親しく話をして多くの情報を得ようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時の聴き取りと、ご家族からの情報は職員間で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等で一人ひとりを把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、申し送り時に、職員間で意見交換、ケアの統一まで話あったり、面会時に日常の様子をご家族にお話し、相談しながら行っている。	「何人も居るのによく面倒を見てもらえる」と家族に感謝される程、職員はしっかり寄り添っているの で、利用者の状態の変化によく気付き、情報を共有している。こういった気付きがケアプランにもつながるシステムも出来つつある。	ケアプランへの家族の同意書に家族の意見欄が大きく設定されており、家族の気持を詳しく記入している例も見られた。これは他ではあまり見られない事例と思う。今後も継続していきたい。また、「歩行リハ」等具体的なケアプランは本人と相談して決めるのも良い。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有している。又、気づきや実践を、介護記録に具体的に記入する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人ご家族の状況に合わせて出来る限り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2ヶ月に一回の理容サービスを活用している。運営推進会議に市担当、地域の役員の方など参加して頂き、周辺地域の支援に関する情報を伺い協力を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診体制を整えており、月4回往診、何かあれば相談し対応して頂いている。通院は原則としてご家族に依頼している。各自、主治医をお持ちの方はご家族が、定期受診にお連れしている。	法人の医療面での支援態勢は万全であり、このホームの魅力の一つでもある。週1の往診や月1の採血検査・法人の訪問看護等、受診も含めた医療支援は各種記録ファイルからも伺う事ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の訪問を週一回受けている。それ以外何かあればすぐ様子を見に来て頂け、情報や状況変化を伝え相談して適切な対応が出来るよう支援している。必要な処置などにも来所して頂け協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護添書、情報提供を行い、随時、連絡を取り合っている。退院に向けて、ご家族・病院の相談員からの回復状況を提供して頂き速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時説明して同意を得ている。現在当ホームもレベル低下し、その傾向は強まっている。必要に応じて、ご家族と話し合いの場をもうけ、出来ることを説明しながら本人が穏やかに過ごせるよう努めている。	ターミナルケアについては開設当初から方針をきちんと打ち立てており、契約時に家族にも説明、同意をもらっている。運営推進会議でも議題に取り上げているし利用者がある一定の状態になった時は、その都度本人にとっては最良の方法を話し合うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事例を基に勉強会や初期対応の訓練を行い緊急時に備えている。緊急時に備え持ち出しファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回(避難・消火)実施している。近隣の法人関連事業所、地域の消防団とも連絡体制が整っている。職員間で共有している。地震・水害に対する計画等は法人全体としての対応に従う。	法人関連の施設が隣接していて何かある時は相互に助け合える事や、ホームの建物が出入り口の多い平屋である事等から災害時の不安は少ない方であるが、夜間も想定した訓練を真庭消防署の指導の下に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、我が身にふりかえて考え、尊厳をきずつけないよう、声かけ、行動が行えるよう努めている。	四季のホームだよりを地域に回覧してもらっているが、利用者家族に同意を得る等、プライバシー保護には配慮している。日常の暮らしの中で利用者同士の些細なトラブルが起きる事もあったが、職員はその都度双方の尊厳が保たれるよう工夫した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる環境に努め、意思表示できにくい方には、表情や仕草を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけている。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、ご本人のペースを大切に過ごされるよう環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向を合わせて衣服の選択、整容等、介助支援を行っている。自己決定できにくい方には、着やすい、好きな色やお似合いになるものを考え支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レベル低下が見られるが、各自の能力に応じ出来る事をして頂いている。野菜の筋とり、玉葱の皮むき、テーブル拭きなど。できたら自力で召し上がって頂けるよう、お腕を大きく軽いものにするなど工夫を行っている。	栄養バランスも良く品数豊富・分量もかなり多目の昼食を殆んどの人が完食。職員は「残さず食べて下さるのが嬉しい」と笑顔。そして食後は「好きなメニューはお好み焼き。大阪にも住んでいたもんな」等、楽しいお喋りが続いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックしている。一人ひとりの状態にあった食事形態にしている。(トロミ・キザミ食・糖尿食)お茶の時間は水分が摂取出来るように種類を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、支援している。ポリドント洗浄も定期的に行っている。生き歯の方もおられ各自に合わせたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け把握に努めて、トイレ誘導している。またソワソワされる方のタイミングを伺いながらトイレ誘導排泄を促している。日中はほとんど失敗なく、すむ方もある。	利用者への寄り添いがとても良くできているので、尿意、便意等意志表示できない人に対しても、職員はその人の顔付きや身振りで失敗のない支援をしている。排泄に関しても「できる事は自分で」を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、繊維質の多い食材、乳製品等を摂取できるように努めている。排泄チェック表記入し、Drと相談し排便コントロールを行っている。ホールを歩くなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日、午後3時のお茶タイム後から開始。その日の体調や気分に応じて入浴されない方が時にはあるが、入浴を楽しみにされている。入浴拒否される方には、声かけを工夫したり、時間をずらすなどで対応している。	入浴を楽しむ事はこのホームでは毎日午後の日課となっている。今日も風呂上がりの〇〇さんが「ええ湯じゃったよ」とつやつやした頬を緩ませながら話し掛けてくれた。「お風呂イヤ子さんも、入ってしまわれたらOKです」との事だ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、休息を取り入れた日中の活性化を行い、安眠できるよう工夫している。何度も起きてこられる方のコミュニケーションを図り室温調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している、薬が分かるように、ファイルに薬の説明書を綴じて職員が見ることが出来るようにしている。服薬支援、状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、ゲーム、絵や作品づくり、手紙等の支援、仲良しの世話を役かれるのを自分の役割と思われている方、洗濯物干し・洗濯物たたみ、テーブル拭き等、個々の力に合った事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体的状況から日常的な外出は困難になっている。時折り職員と食材を買いに出かけたり、ご家族の協力のもと、ドライブ・外食も楽しめている。ホームの立地廻りでも四季折々が楽しめて散歩も気分転換になっている。	前年度の目標達成計画にも「個別の外出支援は家族にも協力依頼を」という取組みを掲げて働きかけてきた。気軽に近隣の地域を散策できる状況ではないので、今後も出来ればこの目標は継続して欲しい。	ユニットによって家族の状況が異なるので、「個別の外出支援は家族にも協力依頼を」は難しい人もあるだろう。色々な事情も勘案しながら柔軟に対応して欲しい。また、行事として計画する時には、出来る限り早目の連絡が参加につながると思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的状況により関心が見られない、お金の価値感が解らない、買い物は職員に委ねる等で日常的にはできない状態である。買い物に同行された時、好きな品を買い支払いを促すが嫌がられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取り次ぎ、手紙を投函したりしている。声かけでやってみようと言われる方には職員が手伝いながら年賀状を作成しご家族に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、食卓テーブルなどに観葉植物や花を飾り目を楽しませている。壁には行事ごとの作品や写真を飾ることで季節感や適度な刺激をだしている。広いホールを自由に行動できている。	特にうぐいすのユニットの共用空間は広く、トイレへ手引き誘導でも歩行訓練を兼ねる事が出来る。愛夢の里の方では玄関のうさぎのみみちゃんが開設以来皆を見守ってくれていると言う。いずれも利用者の日中の活動や居心地の良さを考えて数々の工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファはほぼ座る場所が決まっており、入居者様同士のなじみの関係で落ち着き過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには、名前を掲げ自分の部屋を確認出来るよう目印にしている。ご家族やご自分の写真を飾り、馴染みのタンス、装飾品、小物等、持参する事で、ドアを開けられると自分の部屋だと思われるよう工夫している。	少し前までその人の生き甲斐だった事も今は叶わないが、思い出せる数々の物や写真を居室の壁や枕元に置いたり、ご両親の古い写真や自分が作った作品を周りに飾ったりして、その人らしい第二の我が家が部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に解りやすく表示されている。身体状態に合わせて、自分の力をいかに活かせるように工夫している。		